

一
新編
八

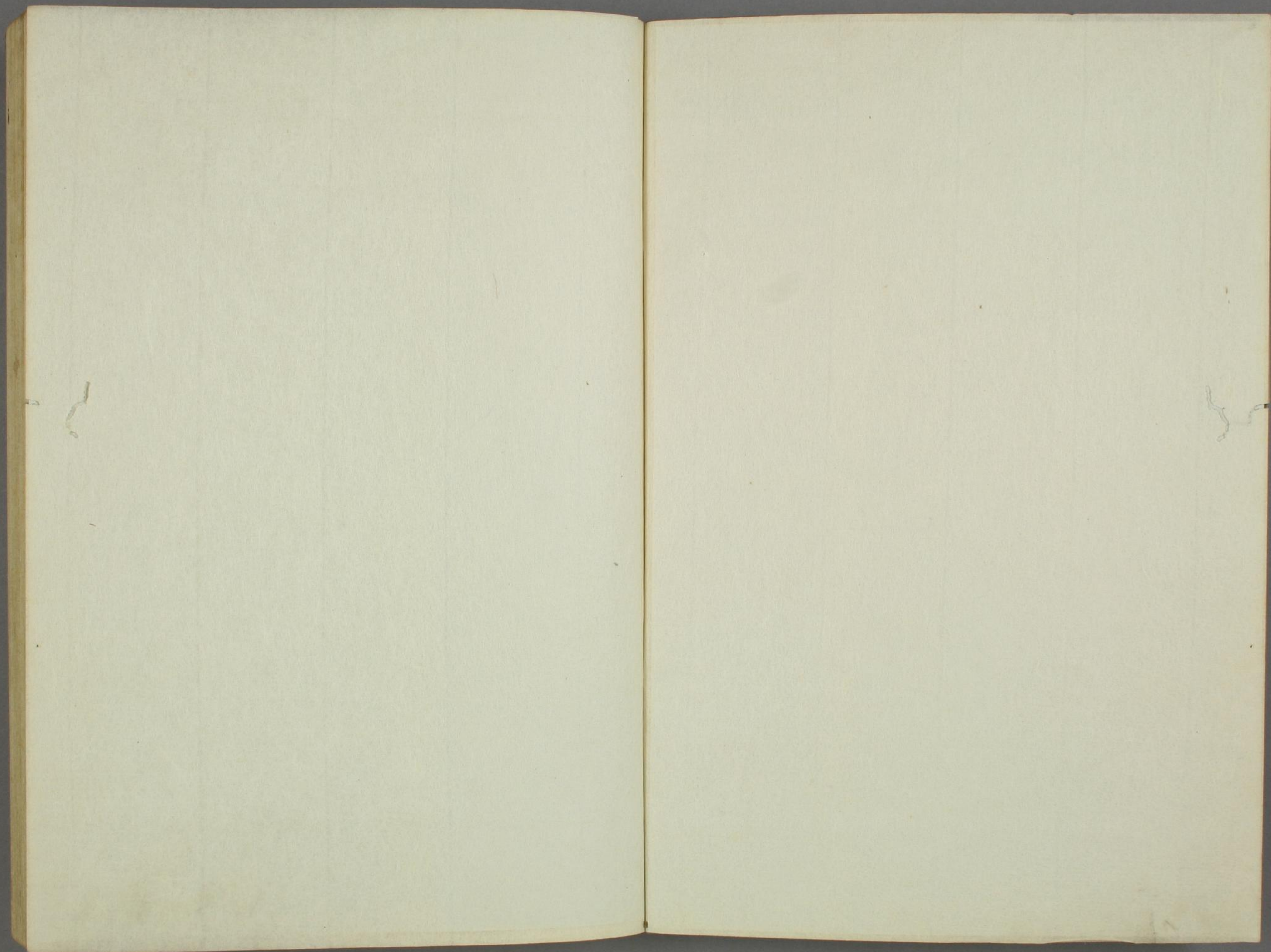
深川女敵討	大食之會	藤代小娘	肥後大男	桐座騷動	御影參	新吉原燒失曆數	文化大火
	長壽	三ッ子	肥前荷	金掘出	大棧	相撲起	明曆大火

1冊5
35
8

15
35
8







曾5
門
號 35
卷 8

深川女敵討



寛政十年年二月三日新深川之斬男女敵討一屏
翌未年二月四日左也

神保左京

以夜みすゝ家より名敵より由るより家
深山平内右為より負ひ右山崎左作
中左妻子より由るより作より二毎止り席
平内外七人より汝新害より由り付る所より

之席... 亦... 依... 系... 溪... 作...

右... 中... 亦...

永井教員

右... 公... 不... 石... 哉

文化西七年二月禮主多兩國新押場
料理茶屋於乃屋八所之場方

大食之會

一 二井入盃 六盃半

兼屋利之場

但之序之創上降屋休息の事 茶碗

一 二井入盃 二盃

坊屋忠之場

一 二井入盃 二盃

信濃屋傳之場

但海 一 版之川 若又之盃 吾人 くと
おど

一 六升入 三斗

小川春日
大坂屋

但馬 乃毛 平堂 米 六斗 原

四斗 七斗

一 六升入 三斗

但馬 乃毛 平堂 米 六斗 原

但馬 乃毛 平堂 米 六斗 原

一 三斗入 四斗

但馬 乃毛 平堂 米 六斗 原

但馬 乃毛 平堂 米 六斗 原

但馬 乃毛 平堂 米 六斗 原

一 三斗入 二斗

但馬 乃毛 平堂 米 六斗 原

但馬 乃毛 平堂 米 六斗 原

右 亦 酒 吞 連 中 之 四 斗 入 斗 百 一 斗 六 斗 四 斗

菓子組

一 膳 次 六 斗

神田

一 半 羹 七 斗

九 屋 高 右 邊

一 膳 次 六 斗

五斗 七斗

一 茶 扱 六 斗 八 斗

一 膳 次 六 斗

八斗 海

一 鴛 殿 八 斗

よ 中 漢 之 邊

一 風 之 扱

五斗 七斗

一 端 之 扱 以 庵 之 香 物 丸 之 中 中 裝

一 系房次の中

一 席子とらう百

一 茶又をい呑ん

一 房次の中

一 小唐一や

一 梅二と

一 茶十七盞の心

一 いぬさうの中

一 香餅或百枚

一 梅ぼ

一 茶右り

一 再酒茶碗

一 ぶつけ

鞠

任野屋

四席

子住者

石武八

之

丸山

安達屋

八

麻布

龜屋

石外連中

飯連

但常々茶碗

一 飯又十四盞

地中

一 日中八盞

後所

石屋

信

和泉屋

吉

小日向

上総屋

九邊

一 同早之盞

一月廿二日

但外：醬油或乳

鱧組

一 萬斗り合三両二匁

一 中萬合三兩三匁

他版又い

一 月合三匁

但版七い

一 月合三匁

但版五い

石外代合三匁以下

二月廿二日
四一七匁

本合春本所

一 〇一の早收馬

一 万屋吉三

馬子馬

一 田屋吉三

西畑

一 本屋吉三

蕎麥組

六月
一 廿七日

一 四十九日

一 廿三日

一 廿六日

一 甲三日

吉原
一 〇一七匁

一 渡屋兵衛

一 〇一七匁

一 山口吉三

神田

一 青屋新八

一 下谷吉三

〇一七匁

一八寸重箱之五盃

外：豆膏之盃

付とく二八とく一盃一盃とく一盃一盃

小書所

右右書

之千之

之七減りて其席一萬八樓に見揚

會よかろがとくを穿くはくを不食

名義も本文よを穿く其席の大概

と書よを穿くを穿くはくを不食

未開の事一とく一

武藏國戸井郡小泉村

百姓

万平

辰百之孫

慶長七寅年出生大坂

汀陣一席後四

右徳院沖代布子代君様汀誕生之席

白髪顔上はは弁を席百人扶持

主下直之度種姫君嫁沖代入之席云

右此白髪顔上はは弁又之百人扶持

主下直云

大切ニ養育家ニシテ流ニ印成右貴育月為
自入孩貴文ニ下直ニ

肥後國大男

一 惣中ニシテ或孩里渥東の方矣於村の出生し
とせんと大守細川公の口ゆき達ニ口賢ニ地
産上の上玄子丹衣於上下と下とをさす方
着丈六尺半油或人守酒食とあり酒を
服しとるくも免すべしとの上玄と
すけ大守米大守その下種の中科産と
流る大守湯と見え遊凡酒ニ科香
服と大守と見え流る大守大守の

肥後國熊本在矢部邑出生牛服
武无衛門人品

一 年拾六丈

一 身重廿五拾二貫目

一 身の丈七尺六寸

一 顔長拾三寸

一 自家の中

一 三寸半

一 足袋長五寸半

一 口は合口茶を森茶

一 腰の巾八尺三寸



翺之牧或牧とてきくもきく牧とてうらたに黄附子
きよきあふすりたる口例の元まほほく武金の上
ぼく食々毒ふもく父母りく味味科理及
父母の肖りたる元とて其後中將野前武金
とほきいひ登り上之者、日くびきと口膳所、遠ん
抱もやふる奴とて上之、大守の一言控まかき
がらみ人扶持はる、慰もて、又、み力業と入賢
中に大守コトイ半とひい出、之せ、定ま、半の春とま、記
紙も大守不斜一真こと上之、名と半股武金、ま
名宗、べーと上之、刀脇元と流、ま

肥前嶋原大浦村病フステリ

八書片篇の上筆

大浦村

おん島娘

やま

二十六

右し之去年中男子、夏に後届せり、ん付尚人、
負漏親、英、込、く、え、た、け、り、水、乳、は、心、産、初、
境、つ、お、る、小、り、た、肉、享、る、境、戸、こ、ろ、人、並、

夜半加も夜半一日の事...
少くもあつて上秋葉も...
の人かよや一向相知...
入道... 小児を虫か...
の人も... 中... 子色...
茶一... 斗... 紙色...
子之... 相成... 丸茶...
清の... 乳香... 子抱...
小児... 抱... 女中...
言... 引... 是...
清... 成... 月... 自...

夜半加も夜半一日の事...
少くもあつて上秋葉も...
の人かよや一向相知...
入道... 小児を虫か...
の人も... 中... 子色...
茶一... 斗... 紙色...
子之... 相成... 丸茶...
清の... 乳香... 子抱...
小児... 抱... 女中...
言... 引... 是...
清... 成... 月... 自...

夜半加も夜半一日の事...
少くもあつて上秋葉も...
の人かよや一向相知...
入道... 小児を虫か...
の人も... 中... 子色...
茶一... 斗... 紙色...
子之... 相成... 丸茶...
清の... 乳香... 子抱...
小児... 抱... 女中...
言... 引... 是...
清... 成... 月... 自...

老も早しむと相人にも毎くしむる
早しむるも天満間田所より早しむる
と西河津より四月より握本所天川屋より
醬油屋より子流恵にけり糸又と前葉とを
積糸の波と扱と魚口のついでに
一身本一如く古蔵もより結判の糸と子流恵に
よりの糸を扱すといふこと成りしと上川や
見物人移を群集とも西河津糸の頭の上
七七の時さるる糸の糸と糸の中よりいふ
糸の糸の中より扱すも相成皆 糸の糸の糸
と糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
尾の端西の糸の庫とも 糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸
糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸

つれづれ西河津の移りし糸の相人にも
糸代末聞の事ありの糸の糸の糸の糸
扱の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸の糸

糸の糸の糸

糸の糸の糸
傳右進

久渡

年月書為の寛政年中

一 以度徳所澤山里との程里山奥の榎木の
二本より一之山江向舟持及か一の節
見出の榎木大サ百二十抱程一えの末迄
長サ二百後四間南の方の枝大サ後九抱をその
小割しより一其間よりとるは通

- 一 榎 長サ七百石 五斗一握 長六尺八寸 七斗
- 一 杉 月之眉程 六斗一握 長四間三尺 五斗
- 一 柏 月之眉尺 榎木一握 長三尺六寸 七斗

以後仕准

一 後鳥羽院文治年中相撲、其令之、以是志賀家断絶、上、汀、司、相勤之、是、汀、年、是、物、先、祖、台、田、畫、後、家、治、之、誠、不、用、志、賀、家、故、實、傳、之、音、達、敵、聞、之、敵、追、風、之、名、之、駕、之、於、是、汀、在、撲、司、之、家、之、是、音、蒙、勅、命、以、序、石、合、用、之、及、双、獅子、之、汀、團、扇、之、駕、之、代、之、相、撲、節、會、之、汀、式

相勤トハ之、是、兼、之、兵、乱、發、節、會、中、延

一 正親町院永祿年中相撲節會之汀、其

二 代、自、追、風、逐、出、之、舊、例、之、相、勤、ト、ハ

一 元龜年中二條関白良吉公ノ日本相撲
此流二流之、汀、年、之、味、流、風、ト、ハ、志、汀、團、扇、并、烏、帽子、袴、衣、袴、唐、衣、四、幅、袴、之、ト、並、之、好、信、長、公、秀、吉、公、權、現、様、汀、代、之、及、之、汀、相、撲、之、相、勤、ト、ハ

一十代目追風

朝廷御相摸ノ式相勤ル元和四月七日
於紀州和音山

東照宮御祭禮并以相摸ノ式治行ル
心奉ル於此宗九燈ノ殿ノ治事ノ中ノ治
事勤ル後ノ御刀一腰以戴ル

一十八代目追風

朝廷御相摸自執ル中絶ル武成ル
二條様御家ノ相摸并御意ノ公也

是ノ御代ノ御出ル願ル也ノ也
相協万治元年ノ當家ノ出ル

一元祿年中

常憲院様 牧所ノ後ノ為成ル相摸

上ノ賢ノ席ノ波方ノ御家ノ治本ノ権ノ右ノ邊ノ仁

入ル御代ノ上ノ式ノ一通ノ波

相傳品ノ洋ノ所ノ物ノ也

一元祖ノ物ノ志ノ十九代ノ不書ノ通

禁裏其外様ノ也ノ相摸也ノ也

右 傳相撲之古實示之
一當時該國之行司 兵力士之免評拙之
代之免評出

右 通 屏 公 上

二月

細川誠中守家士
吉田善九郎

寛政元酉年二月廿九日深川八幡文壇内於
勸進相撲之席免評

一 横 綱 之 傳 三 通

右 石 谷 風 旆 之 助 東 之 後 之 國 大 関
小 錦 川 之 席 西 之 州 之 國 大 関 相 撲
位 與 之 年

但免評上色檀紙色
折裁

二月十九日

乃士司十五代目
吉田善九郎
進 風

文和元年三月是より二十八年應明徳元年七月迄
和暦の年号十三

新吉原焼失曆數

- 一文和六申年吉原切と建丈の二後八年目
- 一和暦之酉年正月廿日江戸大火、市燈失
 同年八月日市堤在方六子坪
 地西幸川濱只今も新吉原の地也
 九年一月
- 一延寶四辰年三月廿日夜市時揚屋早
 湯屋市多壊宅の市火、市所焼失也
 九年三月

一 明和乙子年四月六日曉八ッ所江戸所
出火丁所
不殘燒矣文々四年目

一 明和八年四月廿日曉七ッ所揚屋所
川岸梅屋仁々燒矣文々四年目

一 明和九年辰年二月廿九日五ッ所目黒所
人坂大音年々出火江戸大火之夜中
所西所燒矣後年目

一 天明元七年九月晦日夜四ッ所伏見所
油屋安々播毛出火江戸所近燒矣
文々四年目

一 天明四辰年四月十六日曉八ッ所池水通所
京所丸海老屋物々文々四年目

一 天明七年壬午三月廿日曉七ッ所出火
小丁所西所燒矣文々八年目

一 寛政六寅年四月二日夜大音寺不
出火文々四年目

一 文化九年申年二月廿日夜小音寺不
善七方文々出火小丁所京所燒矣文々

乙未年目

一文比志子年八月廿八日付

京所より自海老屋吉方より出火

不沙焼矢丈

一文政七甲午四月廿暮降る所河川岸

明曆大火

所田向院由来記

抑也所諸宗山田向院世縁の由来と
要を尋し以曆二年丁酉正月十八辰刻
斗のころ威に戌亥の方より風吹せ
ちしほくそ吹上り風より天の川
巻くより首尾雲々色くさあや
心
夜よりすまはるる
かくて未の刻ころつる所は山

お妙幸より火いゝ思ひて天とかす免
寺中一統小焼らがるおや一火風十方に
吹也一湯島とさしてとと出もつ答成
とびいゝ後江産おく人若屋受致く
と焼家つゝと焼井 鎌倉江岸に
夫ゝ西風にすゝさや所へほりさび
移し日本橋通へ所も一同とと出る數
万の火をく男女少くも山に
かへりこもる程あり吳岸寺に
火威一同に外まきい津に車漏程り

冬と風は吹らるる如くに飛ち
大塊あり上より舞に
ゆきもくまの月より
法人のまのまの火とのまき人
海もくまの泥の月より
さうまのけさるる食事をさす
まのまの火とのまき人
燗刀さるる人方へ死すま
少くも事かまのまの火の體に
身を焼く一死す声もまのまの

小風をりりり車漏漕のき黒くひりり
中に丸流り十所二十所をなると燃せり
傳通院と切り九案を不同小燈あがり
小川ゆき四火名屋を立外七ぬみ所
救万目一同に燃せり火をそそぎとふじ
火のこも雨の如し燈屋を音と雷の
あふが如し申の列りり小風西風よ
るるるる流るるるる成八代河原
へ移りり南小九案所一面にあり所最よ
押せりり京橋中橋がど所長橋所

糸後一ッよりり燃せりり男世あせせが
よ小せせせの車長の其外道具とて
小路は積換りりりりり流るるるるに
公の孫子歩りりりりり四火名の節は馬
男世とて殺りりりりりりりりりり
月よとて火先りり燃流りりりりり京
橋中橋と燃りり四方の橋りり一同に燃りり
るるるる糸後の間よ九案を立りりりり
ものがるるるるるるる東西りりりり
めづりり押せりりりり小炎の體よりりりり

塚子詣ぐみ編卒都婆と坊養し
ふとも之香をとくかゝるみ感涙し
いせびし月もあふきぬきぬこころも涙も
夥妻糸詣き今世も二六月中
す懈怠念佛のすゝめとあはさるる
皆く糸詣きいふ一編も心せり
まゝあはさるる

芝車町の大火

一爰に文化之寅年二月廿四日解之芝車
所々々々火南風烈火之家之幸次第田所
之所不沙之延々之田通了松平の波
大洲中初松平之丸中初妻有る言事
初妻表長屋斗之旨得経縁も初年産屋
初妻豊平も水師友之信置中屋妻久保兼
織田麻布も遠山刑も備這方因懐も定新
川守初監為媛房漢貴所を海子之流

蘇中屋敷教多の流所也。石井下谷車坂下
龜屋寺。茶や廣徳寺の稲倉の孔雀茶也
情通院。湯系月返。一曰之新島
此寺島外に丸火湯井所之外所。寺新島
残す。焼灰亦々。中屋敷。亦々。石井
酒井左邊。尉中屋敷。波田。行浪。寺。地浦。寺。波
津。恒。中。中屋敷。宗對馬。寺。多。城。河。沖
之。外。蘇。中。教。多。所。丸。石。井。之。味。尿。若。以。平
下。總。寺。中。屋。敷。押。以。吉。院。法。井。右。京。美。之。死
た。と。信。置。久。深。山。所。以。不。若。校。寺。城。河。也。雲。

酒井又子氏。此。蘇。中。教。多。寺。家。所。家。不。残
唯。念。寺。板。倉。内。膳。中。屋。敷。多。人。信。置。又。一。口。之
吳。院。不。所。家。裏。通。了。新。若。院。河。城。川。所。り。
祿。念。寺。押。稻。倉。の。東。門。跡。報。恩。寺。聖。願。寺
多。人。不。也。小。笠。原。た。と。信。置。中。屋。敷。寺。燒。角。又。日。是
以。一。日。東。風。多。大。川。也。少。く。燒。灰。其。外
久。小。倉。上。中。下。屋。敷。寺。江。方。之。類。か。ぞ。く。難。
右。四。日。四。り。中。時。所。り。望。入。日。四。り。所。以。道。於。合
後。四。時。多。也。在。風。烈。也。事。砂。之。成。吹。上。風。に
向。以。了。々。月。用。リ。事。行。了。中。寺。依。一。日。川

何別... 里程... 四又...
 七八... 燒... 親...
 書子... 道... 事... 月...
 ぬ... 耳... 腹... 牛馬...
 犬... 類...

類燔積

- 一 所教凡七孩所案
- 一 寺社門前所居教多不念
- 一 大石上屋交四所

但小... 教不念... 以下...

- 一 日中屋交凡七孩所案
- 一 蕪中凡七孩所案
- 一 須組屋交七所
- 一 常盤橋中不殘
- 一 吳服為也波法為也大書不見張
- 一 小口喜所
- 一 牢屋交
- 一 歌代屋交
- 一 増上寺表門美大重塔寺所

但坊中四孩寺程

一 幸教百廿ヶ幸流

此幸中分教不知列書子百廿ヶ幸

一 神社八ヶ所

但列書二十八社

一 所表店様方九ヶ所

一 日裏店百ヶ所

一 為之様八ヶ所

一 非人小屋之字八十

一 長延之字八ヶ所

此所教八ヶ所

一 及波之車之口様所置之字

一 幅晋之様九間

此所教七所之様九間 地及中川中七所

一 此魚様教之口様方之字音様

一 殿死人海之様 八ヶ所

地及神石外圍内之字音様

又少人七ヶ所

一 死之百様

一 牛様之怪家之字

